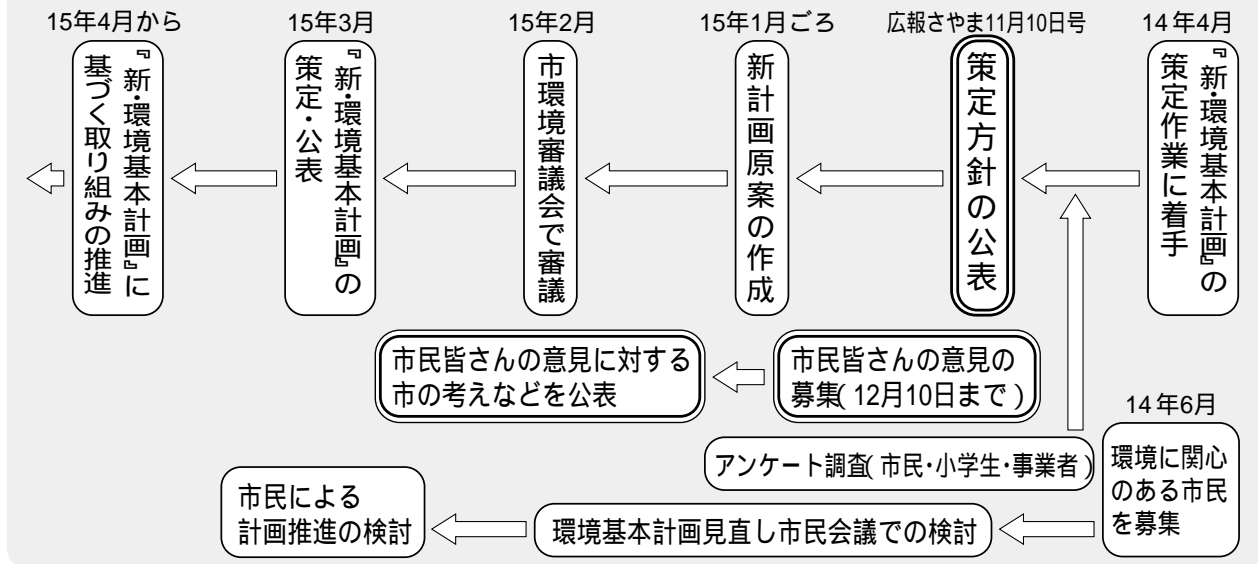


新・環境基本計画で実行プランをステップアップ

新・環境基本計画策定の流れ



環境基本計画を策定してから5年が経過した現在、行政を取り巻く社会情勢は、市民参加、行政の説明責任、地方分権などへの対応や、地球温暖化防止への積極的な取り組みなど、時代と社会の要求に沿った計画が必要です。このページでは、これまでの取り組みを踏まえて、新・環境基本計画の視点と方針をお知らせします。

新・環境基本計画策定の

3つの視点

新しい環境基本計画は、第三次総合振興計画の基本理念の一つである「環境と共生する、環境にやさしい資源循環型のまちづくり」を実現する計画となるよう、次の視点を前提にしています。

狭山市で行う地球温暖化対策を計画に取り入れること

計画の進行管理を環境マネジメントシステムの仕組みで運用し、継続的改善を図り、計画に反映すること

計画見直しの初期段階から市民参加を呼びかけ、市民の意見を取り入れた、市民に分かりやすい計画とする

この3つを視点として、現計画の基本目標・体系などは継承しながら策定を進めています。策定は、さらに公募による市民で構成される市民会議と、環境に関連する部署の職員を

環境基本計画見直し市民会議でも検討しています。

計画は、市民皆さんの意見を反映したものにするため、「環境問題に関心を持つ市民」を広報さやま6月10日号で募集し、50名を超えるかたがたから応募していただきました。そしてこの会の名称を「環境基本計画見直し市民会議」



現計画の勉強会

(以下市民会議)と参加者自らが命名し、毎月2回のペースで会議を重ねています。

市民会議では、2つのステップに分けて作業を進めてきました。第1のステップは、現行の計画や現在の狭山市の環境のための取り組みについて見直すべき点や評価すべき点をグループ作業で整理し、次のように意見をまとめました。

視点や目標像の整理が大切

緑の保全の場合、面積への視点のみで、質の面でどうしていくかが問題である

ごみの減量も、どんなごみを、どう減らすかを考える必要がある

ロマンチックな環境ホテルや湧水などを求めたい

水質測定の数値よりも、子どもが泳げる「川にしよう」という目標像の提示などが必要

取り組み結果の周知が重要

不老川の水質目標は達成しているとの報告に市民への周知不足がある

環境レポートでは指標値のあるものは、×が付いているが、その他は、をやったで終わっている。「それが目的」といつながっているのかを

表す必要がある

計画に項目があがっていても、事業化されていないものもある

中心に構成した庁内会議で検討し、計画がより良いものとなるよう進めています。市民会議の取り組みは困り記事をご覧ください。

新・環境基本計画の策定方針

計画をより実効性の高いものとするために、これからの環境への取り組みは、指導と規制による環境対策から、私たちの生活に密接にかかわる環境基本計画の推進・実行によるものへと変革しなければなりません。そしてこの計画は、市民・事業者・行政のパートナーシップによって進めることが重要であることから、だれにでも分かりやすい具体的な計画でなければなりません。



市民会議によるグループ討議
計画、方針など課題・評価の抽出

市民会議から7環境に関するさまざまな意見が出されています。その意見もふまえながら、市では計画をより良いものとするために、次に示す4項目の方針を打ち出しました。そして実効性の高い「新・環境基本計画」を策定するために、より多くの市民の皆さんのご意見をお寄せいただきたいと考えています。

方針1 狭山市の環境の将来像を具体的に示します

計画の理念「みどりを友とし地球にやさしい都市・さやま」は理念としては理解されているものの、具体的な環境のイメージは人によってさまざまである。このことから市民・事業者・行政が同じ意識で環境保全に取り組めるよう、みんなで共有できる「狭山市の環境の将来像」を具体的に示していく必要がある。

方針2 実効性ある仕組みを整えます

市民による点検と評価ができる、分かりやすい評価指標や目標値を持つて進行管理をしていく。また、これからの問題解決のため市民・事業者・行政の各主体が果たす役割による「協働」の取り組み「パートナーシップ」を計画に取り入れ、実効性あるものにする。

方針3 行政施策では「地球温暖化対策」を強化します

国では「地球温暖化対策の推進に関する法律（1998年）」の制定や、今年3月に新たな

環境への取り組みで評価できる「ISO14001」を取得するなど、環境問題への早期の取り組みは素晴らしい。これまでは市民、事業者、市の連携が薄かったが今回協力関係が持てたことは評価できる。

自然エネルギーの導入に力を入れていて良い。リサイクルダイオキシン対策、緑地の公有地化、情報発信など、個々には良くやっているものもある。環境レポートの評価内容が分かりやすくできていて良い。

不老川浄化活動は良く取り組んでいる。環境基本計画策定、都市緑化基金は評価できる。



ワークショップの発表

この第1ステップをもとに、幅広い問題点を効率的に検討し、狭山市の望ましい環境像を具体化させるための第2ステップとして、テーマを「水」「みどり」「大気」「こみ」「地球」「交通」意識とした分科会をつくり検討しています。なお、検討内容として、現状はどうか、将来20年～30年後どのような姿を目指すか、5年後に目指す姿はとらいつの段階の姿を考え、以下のような意見があげられています。

「狭山の環境の将来像」につながるイメージ
水…ホタルのいる川、アユが釣れる川
みどり…歩いて10分以内でどこまでも続く緑の散歩道

大気…正月のようですがすがすがしい空気
こみ…こみダイエットで環境にやさしいまち
地球…緑豊かで空気のうまい環境
交通…人と車が住み分けている街
意識…人の意識を変えることは難しいが、ポイントでは気づく、かわる。